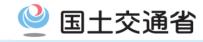
# 「誇り・魅力・やりがい」の向上に必要な視点



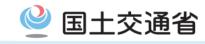


# 取りまとめの方針

- 建設現場で働〈人々(当事者)の「誇り」「やりがい」の向上に取組み、その結果、「魅力」が向上する仕組みとする。
- 具体な施策は、継続的・恒常的に取組まれることが重要である。
- 施策の対象は、年代や職種等多様なターゲットを明確化し、それぞれの施策に対して効果的な戦略の展開を図る。
- 「誇り」・「やりがい」・「魅力」の「相乗的効果」が発揮できる仕組みづくりを図る。

## 施策内容

- これまでの取組みを「見える化」し、各団体等の取組みの連携や発展を図る。
- 知らない人には「知ってもらい」、「興味を持ってもらい」、「やってみたい」など、受けての体験価値・実感に繋がる施策への展開に取組む。
- 「誰に」・「何を」・「どう伝える」、更に、「伝える」事に「伝わる」を意識した、施策の展開を図る。



### 推進体制

- 関係団体等からの、アイディアや提案・要望等を取り入れて、施策の融合や新たな展開に向け、連携・協働の体制を構築する。
- 情報の共有や検討体制の確立に向け、広報戦略など様々な実施主体における プラットホーム的な組織の構築を検討する。

### 個別事項(例)\*今後、提案等を踏まえて具体化する予定

# 誇り

### やりがい

#### 対内的(当事者に向けて)

- 個々の取組みに、元請と下請企業など団体間の連携が あってもいい
- 技術の習得や研鑚など、研修制度の充実も必要
- 処遇の改善とともに、自身の成長の感覚を満たす要因 (昇進、表彰等)が必要。

#### 魅力

#### 対外的(第3者に向けて)

• 災害復旧活動は、その活動自体を反対する人がいないため、PR材料としては強みとなる

#### 対内的(当事者に向けて)

• 現場で働く人々の世代・職種等なより、 感じる魅力の違いを意識して、多様な 切り口でのアプローチを用意する。